

11.子ども食堂での子どもの安全について ほんわか食堂での活動を通して感じたこと

西尾雛

◎ほんわか食堂について

1.概要

- ・開催日：毎月第3土曜日
- ・開催場所：名南病院 講堂（愛知県名古屋市南区南陽通 5-1-3）
名鉄常滑線【道德】駅
- ・特徴：ほんわか食堂は、ご飯の時間の前からお手伝いができるので早い時間からエプロンと三角巾を持った子どもたちが集まる。また紙芝居や、流しそうめんなどイベントが行われることが多いので美味しい食事はもちろん、楽しく遊べるようになっている。

2.始めたきっかけ

名南病院の周辺は低所得者が多く、なにかやらないといけないという思いがずっとあった。ふれあいビレッジで子育てサロンをやっているという経験があり、小児科の先生とお話をしたとき子ども食堂の話題になり、やりたいという気持ちが強くなった。活動のメインの目的は貧困対策だが、そこは前面に出さず、地域を巻き込みやっていけたらと思うようになった。

<母体>

名南健康友の会 代表：松土敏子さん

- ・名南会とは…名南病院、名南ふれあい病院、老人保健施設かたらいの里、名南診療所、中川診療所、名南在宅総合センターきずなといった施設をもつ組織であり、「いのちの平等」の下に、無差別平等の医療、介護を掲げる全日本民主医療機関連合会に加盟している。また名南病院・ふれあい病院は、無料の低額診療事業を行なっている。
- ・名南健康友の会とは…名南会とともに健康で安心して暮らせるまちづくりを進める会。地域の住民から成り立っており、会員数は6,800人おり、その中から子ども食堂を手伝いたいと言う方がほんわか食堂に関わっている。

3.これまでの開催日時・メニュー・プログラム

第1回 2016年12月27日
/カレーライス、サラダ、デザート

第2回 スパゲッティ、サラダ

第3回 2017年1月28日
/ミートパスタ、和風おろしパスタ、ミートボール、サラダ、デザート

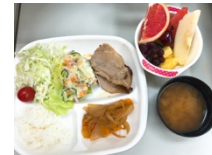
第4回 ロコモコ丼、味噌汁、デザート

第5回 カレーライス、サラダ、ホットケーキ

第6回 2017年5月20日
/唐揚げ丼、豚汁、白玉入りフルーツポンチ
/白玉作り



第7回 2017年6月17日
/しょうが焼き、味噌汁、ポテトサラダ、フルーツ
/紙芝居



第8回 2017年7月15日
/キャベツメンチカツ、サラダ、ミネストローネ、フルーツ
/フルーツカット、サラダ調理



第9回 2017年8月6日
/煮込みハンバーグ、温野菜、とうがん汁、フルーツ
/野菜、フルーツカット、スイカを目の前でカット
/*中京テレビのカメラ、インタビュー



第10回 2017年9月16日
/豚丼、ポテトサラダ、お漬物、味噌汁、フルーツ
/フルーツのカット



第11回 2017年10月21日
/ハヤシライス、サラダ、温野菜、白菜と豚肉の煮物、フルーツ
/野菜、フルーツのカット、ご飯の飾り付け



第12回 2017年11月21日
/カレーライス、温野菜、味噌汁、フルーツ

第13回 2017年12月27日
/鶏肉のクリーム煮、ウインナーと野菜のスープ、フルーツ、ケーキ
/みんなでケーキ作り (デコレーション)



メニューは調理師さんのおかげでおかず、ご飯、スープ、野菜、フルーツなど、バランスが考えられているし、お腹がいっぱいになる量でとても充実している。

また、7月9日 日進絆子ども食堂、10月14日 ほんわか食堂 in みなど、12月8日 西福寺子ども食堂に参加した。

4.参加者と推移

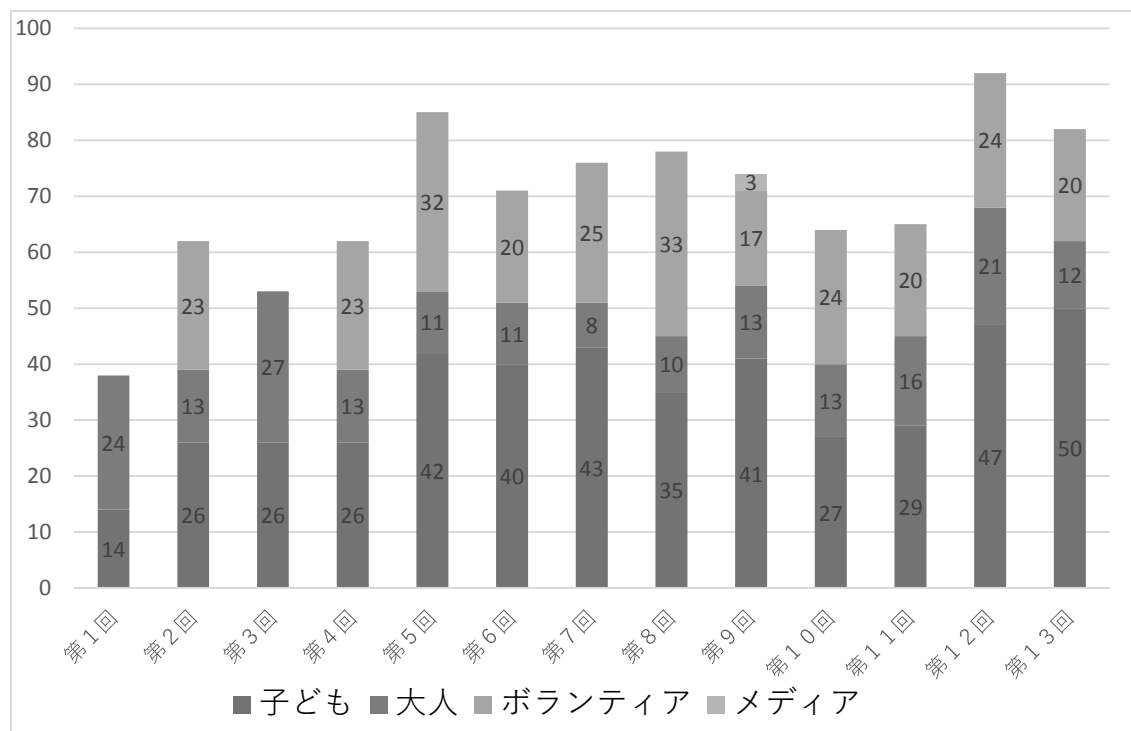


図 1 参加者数

- ・ボランティアの数も、参加者の数も安定している、場所の広さも考えると今くらいの人数が快適に過ごせる限界の人数だと感じる。
- ・天気などで参加者の数が減ったりもするが、大幅に減ることなく増えてきている。
- ・ボランティアには毎回参加している人が多く安定しているのでとても良い傾向だと思う。

5.参加者について

子どもたちは、道徳小学校の生徒が多く、家も近いので歩きや自転車で来る子が多い。他にも明治小学校の子どももいるようだった。

中には兄弟の多い家族も見られる。小さな子どもを連れてお母さん、孫を連れておばあちゃんも見られる。

ボランティアの方の多くは名南健康友の会の方々。名南病院の事務の方や、調理師さん達も参加している。

大学生が3～6人参加している。(中京大学、愛知大学など)

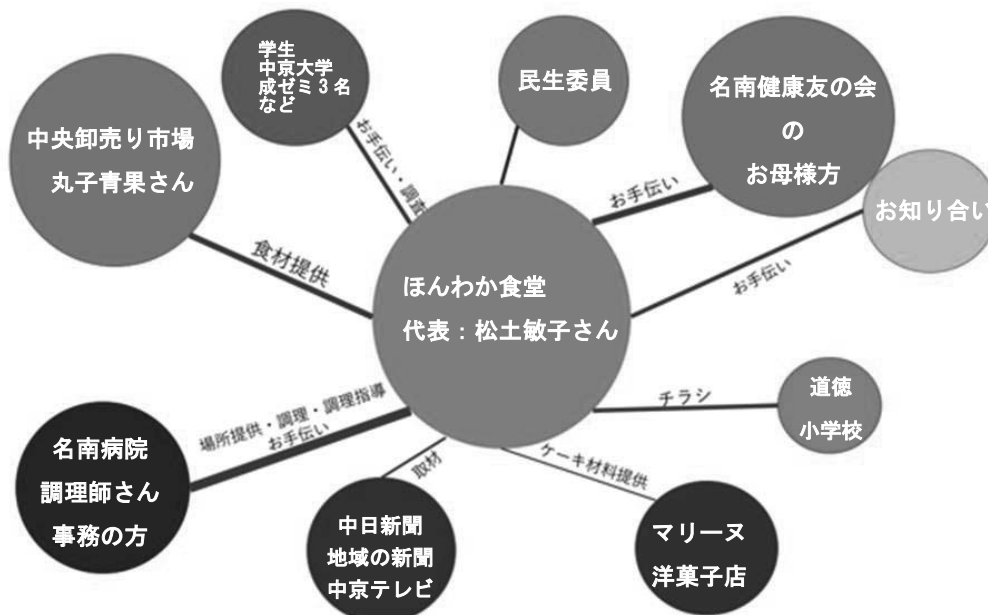
6.課題（地域に根付かせるための課題）

寄付も多く集まっているし、子ども食堂全体で保険にも加入しているし、多くの子どもが参加してくれているので直さなければならないことは特に見当たらないほど良い環境になっていると感じる。しかし、人が増えて来ると会場が狭く、早く食事を終えた子ども達が遊ぶスペースがなくなってしまうというのは、安全面も考えると課題だと感じる。また、安全面については、女性や子どもばかりなど不安がある。

7.工夫

子ども達が帰る際に次の予告をしたり、ハガキを送るなどして次も来てもらえるようにしている。道徳小学校に許可をもらいチラシを配っている。また、料理は子どもが自分で取りに来る給食のような形になっており、自分の食べられる量を言ってもらっているので残さず食べられるし、ご飯も無駄にならない。また配膳形式にすることで自然とコミュニケーションが生まれるようになっている。

8.子ども食堂を支える関係者マップ



名南病院で行なっているので名南病院関係のボランティアのかたがとても多い。名南健康友の会のお母様方のお知り合いのかたも多く、そのまたお知り合いの人など、ボランティアの輪がより広がっていくといいと感じる。また、メディアの取材も何度か来ているので、そこはPRになっているのではないかと思います。さらには、患者さんが子どもたちにプレゼントをくださったりと、様々な人と繋がっていると感じる。

9.ほんわか食堂を一年やって、変化したこと（松土敏子さん）

全くなかった食材の提供が来るようになったこと。今までには知り合えなかった人たちとの出会い。例えば民生委員さん、町内会長さん、大学生にみなさん、他の子ども食堂の方達にも出会うことができた。また、名南会の職員がたくさんボランティアに来てくれるようになった。

10.これからほんわか食堂をどうして行きたいか（松土敏子さん）

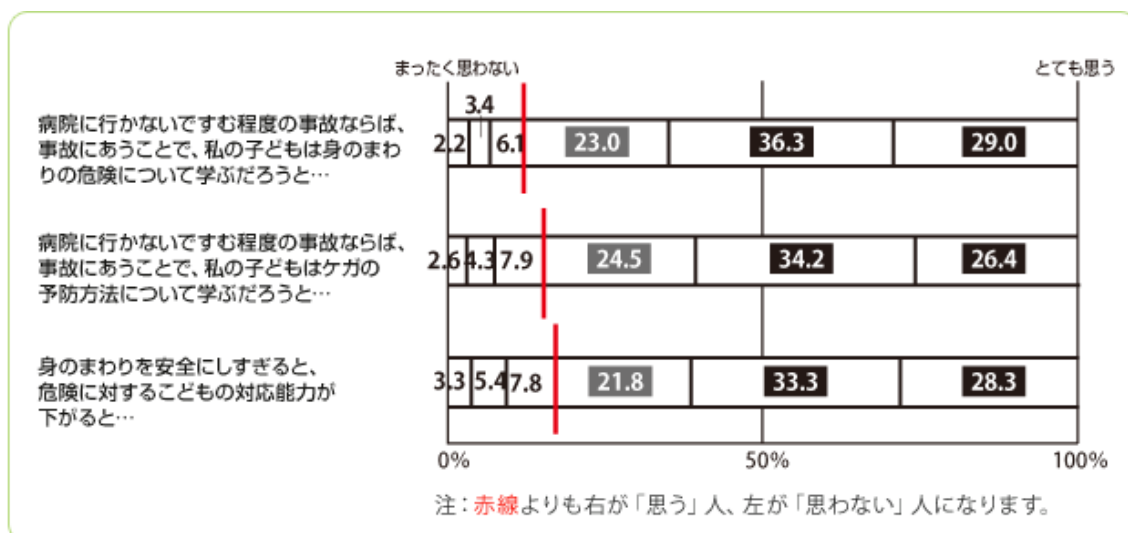
とにかくやり続けること。できれば広げて行きたいし、他の場所でも開催して行きたいが、そのためにはもっと多くのボランティアが必要だ。

11.安全面の課題

（1）安全な環境とは

1960年以降、50年近くにわたり、子ども（1～19歳）の死因は「不慮の事故」である。よく怪我は「親が注意していたら防げた」「子どもは怪我をして育つ」というが、それは誰もが思っていることなのか。2009年初頭にキッズデザイン協議会（内閣府認証NPO）と独立行政法人産業技術総合デジタルヒューマン研究センターが、同協議会の会員企業、団体所属の職員、そして小さな子どもを持つ保護者に協力してもらい3,918人に子どもの事故・傷害に関するアンケート調査を行なった。

・注意をすることで怪我は防げるのか



調査において「『事故』は予防できないと思うかどうか」という質問に対して、78.2%が予防できない。と回答し、「『事故』は前もって予測できると思うかどうか」という質問に対しても61.6%の人が予測できないと答えた。つまり、どんなに注意して歩いていても、

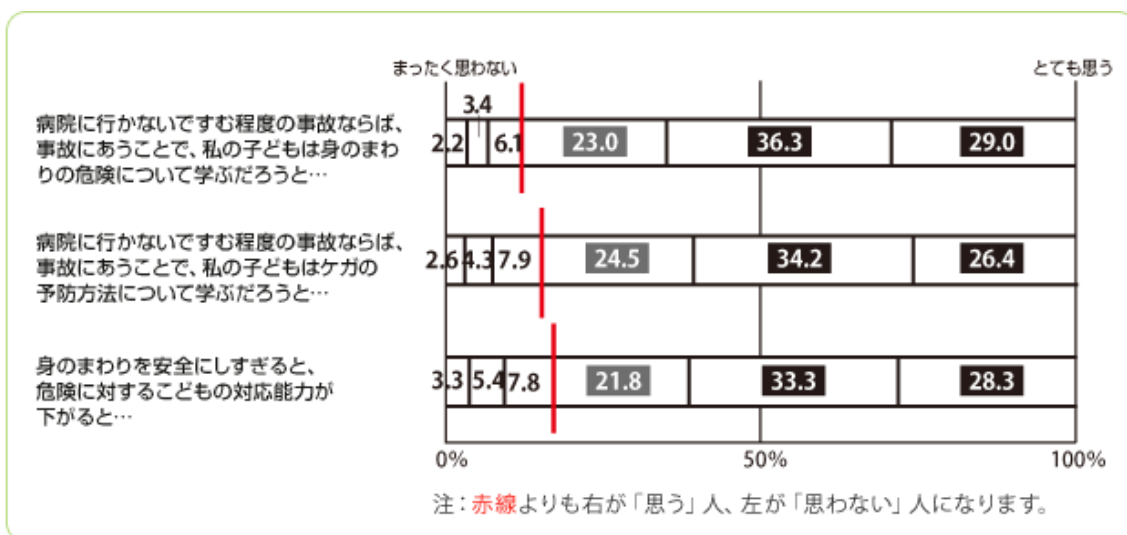
つまりいて転ぶことがあるように事故はどんなに注意をしても起こるものだと考える人が多い。人間の注意力が完璧でなく、人間の反射能力がスーパーマン並みでない以上、事故は起きてしまう。

だからと言って「事故は起きてしまうもの」と諦めるわけではない。アンケート調査において「日本では年間1,000人の子どもが『不慮の事故』で亡くなっています。こうした死に至るような事故は予防できると思うか」という質問に対しては73.2%の人が予防できると答えた。つまり、事故は起きてしまっても、事故の時に起こる「傷害（ケガ）」を軽くすることはできる。と考える人が多くいる。事故が起きて、それによって死亡や重症、後遺障害を残さないようにするという努力をすべきである。

また世界保健機構（WHO）の出した『子どもの傷害予防報告書』でも「傷害予防における見守りは重要である」と述べられている。

結果として、注意をすることで事故を予防、予測するのは難しいが、見守るなどの対策を取ることで事故によるケガを最小限にできる。

・子どものケガに対する意識



調査の結果を見てみると、「身の回りの危険について学ぶ」「ケガの予防方法について学ぶ」「安全にしすぎると子どもの対応能力が下がる」のいずれも8割の回答者がそう思うと答えた。

確かに、小さな擦り傷、切り傷程度は子どもにとって当たり前と考えて、いろいろな経験をさせることが必要である。しかし子ども食堂では、子どもを預かっているという形があるので、より安全で自由に遊ぶことのできる環境を作る責任があると考えます。

参照：「キッズデザイン協議会」ホームページ <http://www.kidsdesign.jp>

(2) 現状

私が安全面について改善していったほうが良いと感じたのは、ほんわか食堂の活動に参加した際、野菜を切るお手伝いをしている小さな子が怪我をしてしまった時があったからである。ほんわか食堂は名南病院の講堂で行なっており、小さな怪我はすぐに病院で対応してもらえるので安心ではある。しかしだからと言って怪我をするのは避けたいことであるし、他の子ども食堂では怪我の対応もすぐにできるわけではないと思うので、より気をつける必要があると感じている。

子どもたちに安全に楽しんでもらえるような環境にするためにはまず、棚などの家具の固定をする必要があると思う。ほんわか食堂でも背の高い棚が倒れてしまい子どもにあたりそうになったことがあった。子ども食堂の行われている場所は、普段はカフェであったり、会議をする場所であったりと子ども食堂のためだけの場所ではないと思うので自分たちで勝手に触るのは難しいかもしれないが、固定できない場合は子どもたちが近づけないようにするなど出来ることをして気をつける必要がある。

また、小さな子どもたちはとても元気で、飛び跳ねたり、走り回ったりして転ばないか、机の角に頭をぶつけてしまわないか、心配になることがとても多い。ほんわか食堂では遊ぶのもご飯を食べるのも同じ部屋なので、危ない！と思うことが多い。そういう時のことを考えると、靴を脱がないようにする、机の角にクッションのようなものをつけるなどの配慮が必要なのではないかと思う。

さらに、子どもたちへの声かけをもう少ししていかなければいけないと感じる。自分自身、子どもたちと楽しく遊ぶことはできていてもしっかりと注意することができていないと感じる。それは仲良くなればなるほど友達のようにになるので注意しにくくなっているのだと思う。しかし、ほんわか食堂でも、他の子ども食堂でも子どもたちを近くで長い時間見ているのは学生のボランティアだと思うので、しっかりと「こうしたほうがいいんじゃないかな」「こっちで遊ぼうよ」などと提案するような形で怪我をしない方向に向けていければいいと思う。

子どもは小さな怪我をたくさんして成長していくという意見もあるが、それが子ども食堂で起こってしまうと親は安心して子どもを送り出せなくなるので子ども食堂では特に安全面に関しての注意をする必要があると感じる。

ほんわか食堂では、子ども食堂全体で保険に加入しており、もしものことがあった場合でも少し安心ができるようにしてくださっている。これはボランティアの怪我にも対応しているし、親御さんも少し安心すると思うので他の子ども食堂でも行って欲しいと思っている。

安全への対策は各子ども食堂で確認し話し合い、改善していく必要があるものではないかと考える。